

「我田引水」→「我田逐雀」の正直

春まで季節はさかのぼるけど、「田んぼの水を取ってくる」という言い方があります。

用水路に流れる水が少ないとき、上流にある他の田んぼの取水口を止めてしまって、自分の田んぼにだけ水が入るようにすることです。文字どおりというか、まさに語源としての「我田引水」です。

それをどのくらいやるかには、農家それぞれの個性があります。いつでも徹底してやってしまうことで定評のある人もいれば、さっぱり太刀打ちできない人もいます。

そして残念ながらというべきか、すずき産地は後者の部類でしょうか。情けないことに今年など、水取りで苦勞する田んぼ数十アールの作付

けを断念してしまったくらいです。

*

季節は流れて、稲の穂が出る夏から、実りの秋。田んぼには、につききスズメが飛び回るようになります。

とくに、他より早く穂がでる早稲品種など、それこそ集中攻撃を受けることは必至です。そこで、防鳥ネットを張ったり、鳥追いテープをめぐらしたり、さまざまな防御策が講じられるわけです。

考えてみると、いずれも殺すのではなく、スズメを追い払うだけの方策です。つまり、自分の田でなく、他の田んぼの米を食べてくれと仕向けているということになります。

じっさいに防鳥対策を講じるか講じないかは人それぞれですが、い



ずれにしてもスズメ害に関しては、水を取ってくる時のような「個性」はなく、誰もが我田引水の権化になるように思います。

自分の田んぼにスズメが群がっている光景を目にしたら、とても穏やかではられません。ところが、すぐ隣の田んぼにスズメがたかっているときは、それほど心配していないことに気がつくのです。以上、正直に告白しておきます。

飛び立つ無数のスズメ。
はたして印刷で見えるかなあ

